

令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）  
分担研究報告書

痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と  
診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 松田 陽一 大阪大学大学院医学系研究科 講師

**研究要旨**

10歳以上の難治性慢性疼痛患者に対する学際的治療及び集学的治療を大阪大学医学部附属病院疼痛医療センターで実施し、痛みセンターとしての介入効果を多施設で多面的に評価するために、疼痛、健康関連QOL、抑うつ、ADL等に関する問診票データ（初診時および初診後3ヵ月後時）を本事業のデータベースに登録した。介入効果の検証結果については、今後事業全体の登録データを解析し、考察していく予定である。また、慢性疼痛に対するインターベンショナル痛み治療の診療システム均てん化・診療連携体制を構築するために、多職種の非専門科を対象としたセミナーを実施した。

**A. 研究目的**

難治性慢性疼痛に対する学際的治療及び集学的治療体制を整備し、痛みセンターとしての介入効果を多面的に評価するために本事業のデータベースに患者情報の登録を行い、その効果を検証する。

また、多職種を対象としたセミナーを実施することにより、慢性疼痛に対するインターベンショナル痛み治療の診療システム均てん化・診療連携体制の構築を目指す。

**B. 研究方法**

大阪大学医学部附属病院疼痛医療センターにおいて学際的治療（ペインクリニック医師、看護師、理学療法士、公認心理師による共同診療）を実施し、また集学的治療としてペインクリニック、脳神経外科、整形外科、神経内科、精神科神経科、看護師、理学療法士、作業療法士、公認心理師による症例検討を行った。

難治性疼痛および慢性痛の治療のために疼痛医療センターを受診した10歳以上の患者に対して学際的・集学的診療を行い、疼痛、健康関連QOL、抑うつ、ADL等に関する問診について、初診時および初診時・3ヵ月後に施行された結果を後ろ向きに探索的に比較検討した。問診票は、痛みのつよさの評価として簡易疼痛調査用紙（brief pain inventory: BPI）、痛みと活動性に関する評価として疼痛生活障害評価尺度（Pain Disability Assessment Scale: PDAS）、心理的ストレス評価尺度としてHospital Anxiety and Depression Scale: HADS、痛みの影響に関する評価として痛み破

局化尺度（Pain Catastrophizing Scale: PCS）と痛み自己効力質問表（Pain Self-Efficacy Questionnaire: PSEQ）、健康関連QOLの指標としてEuroQol-5D（EQ-5D）、不眠評価としてアテネ不眠尺度、中枢性感作評価としてCentral Sensitization Inventory: CSI、家族に及ぼす影響としてZarit介護負担尺度、運動機能評価としてロコモ25などを用いた。取得したデータは当該個人情報に含まれる記述等の一部を削除し仮名加工情報とした後に、本事業のデータベースに登録した。

また、代表的な慢性疼痛であるにもかかわらず患者が効果的な治療にたどり着くことが難しい慢性腰痛について、インターベンショナル痛み治療が適する患者を具体的に啓蒙するため、多職種向け慢性痛診療連携セミナー「インターベンショナル治療が有効な腰痛を知ろう」を開催した。

（倫理面への配慮）

大阪大学倫理委員会の承認（22086）をうけて実施した。

**C. 研究結果**

データベース登録については、令和4年度は107名が調査対象基準に該当し、学際的・集学的診療を行うと共にデータ登録を行った。

インターベンショナル痛み治療のセミナーについては、参加者は62名（オンライン55、現地参加3、登壇者4）であり、多診療科の開業医・勤務医、歯科医師、理学療法士、作業療法士、看護師、薬剤師、ケアマネージャ、介護

支援専門職と幅広い職種に聴講いただくことができた。

#### D. 考察

難治性慢性疼痛に対する学際的・集学的治療の介入効果の検証結果については、今後事業全体の登録データを解析し、考察していく予定である。

また、セミナーでは、医師のみならず、他のメディカルスタッフの参加者からもどうい患者を紹介すべきかわかったとの反響があり、今後の診療連携に役立つ内容であったと考えられた。

#### E. 結論

次年度も引き続き、対象患者の学際的・集学的治療を実施しデータの集積に努めていく予定である。また、インターベンショナル痛み治療の診療システム構築・診療連携のために、他職種向けセミナーの開催は有効であると考えられた。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

- 1) 山中百優, 博多紗綾, 小池杏奈, 壬生彰, 須田万理, 永田沙也, 高橋亜矢子, 松田陽一. 機能性不随意運動を併発した肩関節術後慢性痛に対する集学的治療の経験. 第 51 回日本慢性疼痛学会 2022.
- 2) 松田陽一. 脊髄刺激療法における Differential Target Multiplexed™ (DTM) の現状と可能性. 第 36 回日本ニューロモデュレーション学会 2022.
- 3) 永田沙也, 山中百優, 須田万理, 長田多賀子, 博多紗綾, 高橋亜矢子, 藤野裕士, 松田陽一. 慢性腰下肢痛に対する硬膜外腔癒着剥離術の長期有効性に

関与する因子. 日本ペインクリニック学会第 56 回学術集会 2022.

- 4) 長田多賀子, 山中百優, 須田万理, 博多紗綾, 高橋亜矢子, 藤野裕士, 松田陽一. 下肢痛のない慢性軸性腰痛に Racz カテーテルによる硬膜外腔癒着剥離術が著効した一例. 日本ペインクリニック学会第 56 回学術集会 2022.
- 5) 須田万理, 高橋亜矢子, 山中百優, 永田沙也, 博多紗綾, 藤野裕士, 松田陽一. 尾骨膿瘍術後の遷延する臀部痛に対し脊髄刺激療法試験刺激が有効であった一例. 日本ペインクリニック学会第 56 回学術集会 2022.
- 6) 壬生彰, 植松弘進, 高橋亜矢子, 松田陽一. 鏡像肢知覚評価に基づく段階的鏡療法と患部への触覚脱感作課題により手指機能の改善とアロディニアの軽減が得られた複合性局所疼痛症候群症例. 第 26 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 2022.
- 7) 山中百優, 永田沙也, 高橋亜矢子, 加藤直樹, 須田万理, 松田陽一. 片頭痛に対するヒト化抗 CGRP モノクローナル抗体製剤の投与により肩関節慢性術後疼痛が改善した一例. 日本ペインクリニック学会第 3 回関西支部学術集会 2022.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし